

学校をめぐる住民と国家の関係史

—— メキシコの教育普及過程における住民の教育要求 ——

青 木 利 夫

はじめに

1921年メキシコにおいては、教育省が再建され、州や市の予算によって運営される公立学校や私立の学校のほかに、連邦政府が学校を設置するようになり、初等教育が全国的に普及しはじめるようになった。連邦政府が設置する初等学校を統括するのは教育省の初等教育担当部局であるが、各州には州連邦教育局がおかれ、さらに州をいくつかの学区に分割して監督局が設置された。各学区には視学官（*inspector escolar*）が配置され、学区内の学校と教師の監督と指導、住民との調整などをおこなっている。また、新たな学校の設置を検討するさいには、視学官が、設置の予定される地域や場所にかんしてさまざまな調査を実施し州連邦教育局へ報告する。そして、その報告にもとづいて、局長が教育省の初等教育担当部局に学校の設置を提案することになる。設置される学校の数や場所は、その年の予算や学齢期の子どもの数、既設の学校の状況などを考慮して、最終的に教育省の担当部局が決定する。

学校設置にかんする最終的な決定権は教育省にあるとはいえ、省が学校の設置場所を選択するさいに大きな影響を与えるのが、住民による学校設置の要求であった。たとえば、1964年、閉鎖された学校の再開を求めて、オアハカ州の住民から提出された合意書をみてみよう（資料1）。



SECRETARIA DE EDUCACION PUBLICA

DEPENDENCIA

SECCION MESA NUMERO DEL OFICIO EXPEDIENTE

ASUNTO:- ACTA DE CONCERTISMO QUE FIRMAN LAS AUTORIDADES MUNICIPALES Y EDUCATIVAS DE LA COMUNIDAD DE SANTA MARIA ALBARRADAS, PARA LA APERTURA DE LA ESCUELA RURAL DE AQUEL LUGAR.

En la ciudad de Tlaxclula de Matamoros, del Estado de Oaxaca, siendo las doce horas del día 30 (treinta) de agosto de Mil novecientos sesenta y cuatro, reunidos en el local que ocupa la Inspección Federal de Educación de la Quinta Zona Escolar, los CC. Ignacio Olivera Ruiz, Agente Municipal; Francisco Olivera Ruiz, Suplente del C. Agente Municipal; Feliciano Pérez Olivera, Alcalde Municipal; Francisco Salvador Pérez, Secretario Municipal; Ernesto Pérez Pérez, Presidente de la Sociedad de Padres de Familia; José Pérez Olivera, Secretario de la Sociedad de Padres de Familia; Eulogio Martínez Olivera, Presidente del Comité de Educación; Ceilo Martínez Pérez, Secretario del referido Comité de Educación; Juan Pérez Olivera, topil Municipal; Juan Hernández Cruz, vecino de la comunidad de Santa María Albarradas y el C. Profr. Román Orozco Gutiérrez, Inspector Federal de Educación de la Quinta Zona Escolar en el Estado. Se procedió a explicarles a las autoridades municipales y educativas arriba anotadas oriundas de la Comunidad de Santa María Albarradas, que de conformidad con el problema presentado en aquella población el 18 diez y ocho de junio pasado entre los vecinos de la población y el C. Director de la Escuela -- por instancia del párroco del lugar, motivó el cierre de la Escuela de la referida población de Santa María Albarradas. -- Acto seguido, el C. Inspector Escolar se comprometió a abrir dicha Institución, por las reiteradas gestiones de las Autoridades Municipales y Educativas presentes, mismas que se comprometen a prestar toda su colaboración a la tarea Educativa bajo los siguientes compromisos: Primeros:- Las Autoridades Municipales, Educativas y vecinos en general de Santa María Albarradas prestarán toda la ayuda moral y económica necesaria para el mejoramiento del edificio escolar del lugar. -- Segundo:- Preguntar al Maestro que labore en la Escuela del lugar, todas las garantías y ayuda necesaria para el desempeño de su cometido. -- Terceros:- No permitirán que el Sacerdote o cualquiera persona extraña a la Escuela, intervenga en los asuntos que son de la competencia de las Autoridades Educativas Superiores. -- Cuartos:- Las Autoridades Municipales y Educativas Presentes se comprometen a seguir pagando por el resto de este año una Maestra municipal. -- Quintos:- El C. Inspector Escolar, igualmente se compromete a ayudar dentro de las posibilidades de su investidura a la Escuela de la citada población de Santa María Albarradas. No habiendo otro asunto que tratar, se levantó la presente para constancia, firmando todos los que en el acto intervinieron! DAROS FE. -----



Handwritten signatures and stamps, including 'Tlaxclula, Oax.' and 'MEXICO'.

当市ならびに教育関連委員が繰り返しおこなった交渉によって、前述の（閉鎖された）施設の開設を視学官が約束し、市・教育関連委員は以下の合意にもとづき、教育事業にたいしてあらゆる協力をするを約束する。1. サンタ・マリーア・アルバラダスの市・教育関連委員とすべての住民は、この地における校舎の改善のために必要なあらゆる道徳的、経済的援助を与える。2. この地で働く教師にたいし、その任務を遂行するために必要なあらゆる保障と援助を与える。3. 聖職者や学校関係以外の何人も、上層の教育当局の権限になる事項に介入することを認めない。4. 当市・教育関連委員は、本年の残りの期間、市の教師にたいする支払いの継続を約束する¹。

これらの合意事項には、メキシコにおいて学校が普及、拡大していく過程のなかで、住民と学校との関係がいかなるものであったかがはっきりと示されている。第一に、住民が校舎の改善のため、「あらゆる道徳的、経済的援助」を、そして、第二に、教師にたいしても「あらゆる保障と援助」を与えるとのべている点である。すなわち、校舎と教師にかんして、住民側が教育省にたいして全面的な協力を申し出ているのである。しかしながら、このことは、住民が教育省すなわち国家へ服従していることを意味しているわけではない。この申し出を裏返して考えてみると、国家の定める教育方針や活動内容、あるいは派遣されてくる教師が住民の意に添わなければ、校舎をはじめとする学校施設の建設や整備、教師の教育活動や生活にかんして、住民は協力しないということもできるからである。ここに、「学校」をめぐる、住民と国家とのあいだのさまざまなかけひきが生まれることとなる。

こうした「学校」をめぐるかけひきのなかで、住民は、子どもの教育にかかわることだけではなく、居住地域内外におけるさまざまな問題にかかわってみずからの権利や利益を追求しようと試みる。学校や教師を受け入れたり、あるいは逆に拒否したりすることは、そのためのひとつの戦略と

なる。一方、国家は、学校や教師をつうじて、〈メキシコ国民〉の育成、均質的な文化の創出による国民統合をめざす。住民と国家それぞれの利害は、ときには一致することもあれば、対立することもあるだろう。「学校」は、そうした両者が互いの利害をぶつけあい、ときには協力や妥協をし、ときには対立する場となるのである²。

20世紀前半のメキシコにおける学校拡大の過程は、まさにこうしたかけひきがおこなわれる新たな社会空間の創出の過程でもあった³。本稿は、住民と国家とのあいだで、どのような相互関係が成り立っていたのかを明らかにすることを目的とする。そのさい、おもに、メキシコ教育省歴史文書館に残されている請願書など住民の手による文書を中心に検討し、学校拡大の過程において積極的に関与した住民側の視点を重視したい。住民の請願書などの文書は、メキシコ住民の声を聞くことのできる数少ない貴重な史料であることにかんがみて、本文のなかでできるかぎり引用することとした。

1. 学校施設にかかわる住民の協力

はじめに、先の合意書の合意事項その1にかかわって、校舎をはじめとする学校関連の施設や備品をめぐる、住民と教育省がどのような関係にあったのかを検討したい。

1920年代以降、全国規模で学校教育が普及していくなかで、「学校」とされるものがすべて、校舎・校庭などの施設や机・いすなどの備品をもっていたわけではなかった。教師が派遣されてきたとしても、学校施設がないため、すでに使用されなくなったかつての修道院の建物や民家の空き部屋、部屋が見つからない場合には野外の木陰において授業がおこなわれることもあった。政府にとって、教師の給与に加え、学校を設置するための土地の獲得、校舎や教師の住宅の建設、机やいすなどの備品の製作、運動場・農場・作業場・家畜小屋などの整備といった学校に求められる施設全

般にかかわるすべての費用を政府の支出でまかなうことは不可能だったのである。そのため、土地・資材・労働力・割当金・寄付金の提供など、住民の協力がえられない地域においては、学校関連施設の建設が困難となり、住民の非協力的な態度が学校教育普及の障害のひとつとされていた。

一方、住民の側からすると、こうした協力を積極的に申し出ることによって、教師の派遣や増員など、学校の設置や拡大、教育の改善を求めて、住民側の要求をより強く教育省へ訴えることができたのである。以下に引用するのは、1968年、オアハカ州の住民が、農村学校において上級のクラスを開設するため教員の増加を求めた請願書のなかで、州連邦教育局長にたいして申し出た協力項目である。

教師の増員を求めるにあたり、われわれは以下の仕事を遂行することを誓います。

1. 5年生向けの教育にもっとも必要とされる教材、教具を入手するための協力をします。地図、地球儀、解剖学の壁掛け図、幾何学セット。
2. 各住民が、図書館向け図書の一部、大工道具を入手し、校舎内を塗装するため、10ペソを寄付します。

(中略)

5. 住民は、教師のためのべつの家を建設するため、木材の伐採をすでに開始しました。
6. 校舎をよりよく保持するため、まわりに木の柵を設置します。
7. 生徒のために2つ、教師のために2つのトイレを建設します⁴。

教具や教材をはじめ図書や文具など、学校で必要となる物品については、すべての学校が住民の寄付によってまかなっていたわけではなく、教師や住民が教育省へ請求して入手する場合が多かった。しかし、この村の住民は、施設の建設や整備にかかわることだけではなく、さらに、住民の側からの資金や労働力の提供を教育省に約束することによって、クラスを

増やすために不可欠な教師の増員をはたらきかけているのである。

ここで重要となるのは、学校の設置や改善にかんして、住民がすべてを教育省任せにするのではなく、できることは自分たちでおこなうという態度を示していることである。さらに、こうした住民による資金や労働力の提供によって建設・整備された校舎・農場・作業場、あるいは購入された物品について、政府ではなく住民たち自身がそれらを所有するという意識をもつようになるという点も注目される。たとえば、1952年、オアハカ州のある村の住民が、教育省からだされた指示にたいしてとった対応をみてみよう。住民と教育省によるこのやりとりは、学校に併設された農場からえられた収益によって蓄えられた基金をめぐるものである。

下記署名のもの、市当局、教育委員会、学校農場委員会（すべて住民から組織される）は貴殿（州連邦教育局長）にたいし敬意をこめて以下のとおり申し立てます。

1. 第4学区視学官よりまわってきた文書をうけとりましたが、それによると、学校農場の蓄えによる基金をエヒード（共有地）信用銀行に預けるようわれわれに要求しています。
2. 学校農場の基金はすべて、校舎を再建し学校の備品を製作するために投資されたことを明らかにいたします。というのも、われわれは、連邦政府からの援助をいっさうけなかつたからです。すべては、この村の住民の犠牲と学校農場基金によるものです⁵。

学校施設の改善や備品の購入などにかかわって、教育省の予算不足を補うために住民から割当金や寄付金が徴収された。さらに、学校でおこなわれるバザーの売り上げや、祭りのさいに集められた収益金、学校に併設された農場で収穫された作物を市場で売ることによってえられた収入などが、学校の改善にあてられることも多かつた。上の文書は、住民が提供し整備した土地を住民自身が生徒とともに耕すことによってえられた収入

を、村の学校のために利用したことを主張したものであろう。この申立書の最後には、翌年の基金は銀行に預けることが約束されており、住民は教育省の指示にしたがう意志を示している。しかし、この年の基金については、みずからの判断で学校の施設に投資したことをはっきりと主張した。そこには、教育省の許可や資金援助をうけることなく、学校を改善するために自分たち自身の努力で校舎や備品の修理や製作をおこなったことにはいる住民たちの自負心をうかがうことができる。

こうした点について、学校の運営をめぐる地域の交渉過程を明らかにしようとするメルカードは、ある村の調査にもとづき非常に興味深い指摘をしている。学校の建て直しにさいして、それまで使用されていた校舎を取り壊すという提案がなされると、かつてその校舎をつくるために尽力した村の住民から取り壊し反対の意見がだされることが多いというのである。そして、メルカードは、こうした住民の反対意見について、「所有権をもっている学校を守っているようであった」⁶とのべている。さらにメルカードは、学校建設をめぐる村の記憶を明らかにしようと試みたべつの論文において、学校が建設された土地をめぐってつぎのように指摘する。

学校の土地にかんする歴史が語られるさい、その土地について共有財産として話されるのである。土地は誰そのものであったとか、これこれの方法で入手されたとか、いまだに問題があるとかいわれるが、いまでは「学校のもの」である。地域の文脈において、このことは、土地が政府の所有ではなく、この地にある学校のものであると考えられていることを意味している⁷。

メルカードの先の引用とあわせて考えるならば、住民が提供した資金や労働力によってつくられた学校もそれが建つ土地も、政府のものではなく住民の共有財産であるということが住民のあいだで強く意識されていることがわかる⁸。一方、教育省は、住民の資金や労働力による施設でも政府に

寄付された以上は、それを管理する権限は教師にあり、最終的には教育省にあると考えていた。そのため、学校という「財産」やその空間の使用をめぐって、ときに住民と教育省が対立することもあった。以下の文書は、教室の備品であるいすをめぐって、1949年に父母会から教育省連邦区初等教育局長あてに提出された要求書である（資料2）。

われわれは、貴殿にたいし、以下の目的のために価値ある命令を発するよう心より懇願いたします。この父母会が基金から費用を拠出した数脚の木製いすと、同じくM172学校にあるいくらかの木材をわれわれにお返しいただくことをご承認ください。今回、2年B組の子どもたちが、下記署名のものの家において、父母会独自の費用による教師から特別の授業をうけている部屋を整備するために、われわれは木材を必要としています。この授業は、子どもたちがついていくことが可能かどうかをみるためであり、このグループの子どもたちすべてがおかれている遅れた状態は憂慮すべきものです。こうした問題を前にして、この父母会は、無関心でいることはできません⁹。

これに続けて父母会は、父母会の所有物である物品を自由に使うことに教師が反対していると批難し、自分たちの資金によって獲得したものは教師や教育省のものではなく、自分たちの学校のもの、すなわち父母と生徒のものであることを主張している。しかし、このような父母による要求にたいして、教育省の対応は非常に冷淡であった（資料3）。六行しかない教育省の担当者からの回答には、父母会の要求に応えることは不可能であり、その理由として、いすは学校へ寄付されたものであるから、それを学校外で利用することはできないと記されてあった。さらに、教師は公認のものでなければならないと付け加えてあり、父母会が教育省の許可なく独自に雇っている教師によって運営される教室は、連邦学校の一部としては認められないということが示唆されている¹⁰。この問題については、これ

SECRETARIA GRAL. DE EDUC.
 PRIM. EN EL D.F.
 SUBDIRECCION TECNICA.
 OFICINA TECNICA.
 SEC. ESTUDIOS PEDAGOGI-
 COS.
 19672
 E/121.1(E 21"172")/1

Los equipos pertenecen a la escuela.

México, D.F., a 14 de septiembre de 1949.

C. ALFREDO VAZQUEZ ROJAS.
 PRESIDENTE DE LA SOC. DE PADRES
 DE FAMILIA DE LA ESC. 172.
 Américas 72. Col. Moderna. Cd.

Con relación a su oficio s.n. fechado el 16 de agosto anterior, manifiesto a usted que no es posible acceder a la petición de esa Sociedad, en vista de que los muebles fueron donados a la escuela y, por consiguiente, no se puede disponer ya de esos equipos, fuera del local; por otra parte, el personal docente debe ser el oficial.

Atentamente.

EL SUBDIRECTOR GRAL. TECNICO.

Manuel E. de Zamcona
 PROF. MANUEL E. DE ZAMACONA



DIREC. SEC. ESTUDIOS PEDAGOGICOS
 EN EL D.F.
 OFICINA TECNICA

CMM/gp

以上の資料がないためどのような結果となったのかはわからないが、父母会が子どもたちの教育水準の低さを心配し、自分たちの費用でまかなっている備品や教師を有効に活用しようとしたのにたいし、教育省は、そうした父母の懸念を無視したかたちで、備品や教師にかんする教育省の権限を主張したのである。

また、メキシコの農村教育を研究するロックウエルは、ある村において、学校の鍵の管理をめぐる住民と教師のあいだで対立があったことに言及している。それによると、住民は、自分たち自身で鍵を保管し、授業以外に住民集会や資金集めのためのダンス・パーティを開く会場として、あるいは倉庫として、場合によっては夜間刑務所として学校を使おうとする。それにたいして、教師は学校の物品などを保管し、平日は学校に宿泊することもある。住民も教師もともに、誰が鍵を管理するかをめぐる不満を訴えているというのである¹¹。学校の鍵の管理にかかわる両者の軋轢は、誰が学校を所有するかという所有権をめぐる、住民と教育省のあいだに深い溝があることを示している。

このような「学校」の所有、管理をめぐる対立は、「学校」が国家の統制下であって、国家から住民に働きかける場としてのみ機能していたわけではないことを示している。住民は、みずからの負担によって建設し整備した「学校」が自分たちのものであると意識している。そして、子どもの教育にとどまらず、地域内の住民が集う共有の場として、住民独自の論理で「学校」を利用しようとしているのである。

2. 教師にたいする住民の協力

つぎに、はじめに引用した合意書の合意項目その2に注目してみたい。この項目においては、教師にたいして住民があらゆる保障と援助を与えるとされている。学校が普及するか否かにかかわる非常に重要な鍵となっているのが、施設の建設以上に教師にたいする住民の対応なのである。とり

わけ農村学校の場合、交通の便の悪い山間部など、比較的大きな町から離れている村に設置されるため、教師は外部との連絡がとりにくい勤務先の村に住まなければならない。したがって、教師が勤務地で生活をするためには、勤務先の村と中心村との移動や、住居の確保、食料の調達など生活にかかわるすべてのことにおいて住民の協力や援助が必要となる。

以下の請願書は、1967年、住民が教師の派遣を州連邦教育局長に依頼したさいに、教師にたいして食料の援助を約束しているものである。

下記署名のもの、市長セルソ・ラミーレス＝サラス、代理マウロ・マルティネス＝ラミーレス、書記セレスティーノ・テラン＝エスコバルは、敬意を表して出頭し表明します。

1. われわれがつねにおこなってきたように、(中略)この学校の仕事を新たにはじめるため、三人の連邦教師を承認されるよう貴殿にたいしお願いします。
2. 今年の2月よりわれわれは、学齢期にあるわれわれの子どもたちのために十分な教師をえるよう交渉しております。今日まで、教師を迎え入れてはおりません。われわれは広い学校と十分な備品と生徒をもち、(中略)教師には無償で食料を提供することを約束しております¹²。

ここでは、教師の派遣を求めて、住民が教師に「無償で」食料を提供することを約束している。それは教師の派遣を住民が強く望んでいることを示している。しかし、派遣されてきた教師を住民が受け入れない場合、あるいはもともと学校を拒絶している場合、教師に部屋を貸さない、食料を売らないなど、教師への協力を拒否し、さらにはさまざまなかたちで教師の生活を妨害することさえも少なくなかった。教師によって書かれた回想録にも、勤務地において自分の住むところや食料の確保がむずかしかったこと、反対に、村役や住民の協力によって住居や食事の便宜を図ってもらったことなど、教師の生活そのものにかんする記憶が数多く語られてい

る。そこからもわかるように、住居や食事の確保をはじめとする教師の基本的な生活は、とりわけ農村地域において、住民の対応によって大きく左右されていたのである。

さらに、住民による安全の保障は、教師の生命にかかわるもっとも重要な要素であった。メキシコにおいては、19世紀よりカトリック教会と政府との対立関係が続き、20世紀前半には学校教育をめぐる両者の対立が激化した。政府は、学校における宗教教育や宗教関係者による学校の運営を憲法によって禁止するなど、学校教育から宗教を徹底的に排除しようと試みた。それにたいし、聖職者は、政府による学校を「悪魔の学校」とよび、住民にたいして学校を拒絶するよう説くなど政府の学校に強く反発した。また、カシーケとよばれる村の権力者が、みずからの権力を保持するため、国家権力の末端組織である学校を拒絶することも多かった。教師は、勤務地にとどまることができたとしても、村の権力者からさまざまなかたちで圧力をうけ、権力者の意向に添わないときには、暴力をうけ命を失うこともめずらしいことではなかった。

はじめに引用した合意書にある学校が一時閉鎖になったのも、まさに教師の生命が脅かされたからにほかならなかった。この合意書が作成された前の月に、教師と司祭の対立から、司祭を支持する住民によって教師が襲われそうになるという事件が起こった。その結果、教師たちはほかの地域への異動を申し出たため教師が不在となり、学校が一時的に閉鎖となったのである。合意書において、教師にたいする住民の保障と援助がもりこまれた理由は、こうしたことが背景にあったと考えられる。教師は、住民による保障と援助がなければ、教育活動以前に、みずからの生活、さらには生命さえも守ることができないのである¹³。

このような状況において、教師がみずからの生命や生活を守り、その上で教育活動をおこなうためには、住民のさまざまな要求や要望に十分配慮し、住民の信頼をえることが重要となる。また、学校を監督し、教師を指導する視学官も同様に、住民と接する機会が多く、そのため住民の意向を

無視することはできなかった。たとえば、1928年、タマウリパス州のある視学官は、住民から以前に働いていた教師を戻すよう要求され、その対応に苦慮し住民につきのような文書を送っている。

わたしが担当する監督局は、その地の住民の要求にしかるべき配慮をいたします。その要求は、ロレンソ・バディーリョ氏を学校へ戻し、そうでなければ、ほかのいかなる教師にもあらゆる援助をしない覚悟であるというものです。勇敢な態度をおとりになることは賞賛いたしますが、上層の学校当局への配慮が欠けていたことを残念に思います。というのも、上記のバディーリョ先生は、ヒメーネス中心村における難しい状況に立ち向かうため、連邦教育局長より命令をうけました。そのため、さしあたり、あなたがたの要求に応えることはできないでしょう。この地区の視学官として唯一あなたがたに承認できることは、ドローレス・H・カストロ先生の能力が著しく劣る場合、より訓練されたほかの教師と交代させることでしょう¹⁴。

このように、住民と直接向きあわなければならない教師や視学官は、住民の要求に応えるべく最大限の努力をせざるをえない。とはいえ逆にいうと、ある農村教師が回想録のなかでのべているように、「村の信用と信頼をえれば、教育、文化、社会活動の成功が保証される」¹⁵ことになるのである。ただし、住民のあいだにも利害の対立があり、住民の要求や要望は必ずしも一枚岩ではない。そのため教師や視学官は、住民どうしの関係がどのような状況にあるのか、さまざまな集団の利害がどのように絡み合っているのかを十分に理解しなければならない。上にふれたこの農村教師は、複雑な利害関係が交錯する村における教師のあるべき姿をつぎのようにのべている。

校長は、社会のなかに存在するグループのあいだでバランスをとるた

め、確実な能力と広い視野をもった教師でなければならなかった。一方は豊かなものと聖職者、他方は農民とエヒード（共有地をもつ村落共同体）であり、その関係は、学校において決定的なかたちで影響をおよぼし、その機能を複雑にしているのである¹⁶。

学校は地域内のさまざまな集団によって強い影響をうけているため、教師は、各集団の複雑で重層的な関係のなかでバランスをとることが必要であり、そのための能力と視野を身につけなければならなかったのである。

教師にとってこうしたバランス感覚は、住民間の関係だけではなく、教育省＝国家と住民との関係においても重要となってくる。いうまでもなく教師は、教育省の定めた教育理念や活動方針にそって教育活動をおこなうことが求められる。しかし、住民の信頼をえるためには住民の意向を優先し、ときとして国家の理念や方針とは異なる、あるいは相反する活動をせざるをえなかった¹⁷。教師は、勤務先の村において、さまざまな利害をめぐって複雑な関係にある諸集団それぞれと微妙な関係を保持し、さらに、教育省と住民とのかけひきのなかで両者とおりあいをつけつつ、教育活動を実践していくことが求められたのである。上に引用した視学官の例においても、住民の強い要望と州連邦教育局の決定とのあいだにたって、その対応に苦慮する視学官が、妥協策を提案することで住民との関係を維持しようとする姿がみえてくる。

一方、住民は、非常に微妙な立場におかれている教師に援助を与えるかわりに、また、場合によっては援助を拒否するかまえをみせて、自分たちの利益や権利を主張するためにしばしば教師を利用した。具体的には、エヒードとよばれる共有地の獲得や居住地域内外で生じる諸問題の解決を求めて、住民は教育以外の問題にかんしても、しばしば教師に助言や協力を依頼している。こうした依頼に応えることが、住民の信頼を獲得することにつながるため、教師は専門外の分野においてもあらゆる努力をせざるをえない。すなわち、教師が派遣されてきたということは、住民の側からす

ると、子どもたちに教育を与えるという本来の目的に加え、住民どうしの、あるいは住民と国家とのあいだにたって利害を調整してくれる新たな「仲介役」、「交渉役」を手に入れたことになるのである。

3. 住民による教師交代要求

教師の任命にかんしては、地域において無償で子どもたちに読み書きを教えているものや住民側が報酬を払っている教師を、連邦教師として採用するよう住民から教育省に要求する場合もある。しかし、多くの場合、教育省が予算などの全体の状況を判断して教師の派遣先を決定する。そのさい、教師の希望や出身地とは無関係に勤務地が指定されることも多く、また、比較的頻繁に異動命令がだされるため、教師はいくつかの村を短期間のうちに転々とすることもあった。住民にとっては、どのような教師が派遣されてくるかわからず、また、先に引用した視学官の文書にもみられたように、教育省の異動命令に逆らって、住民の希望する教師をとどめておくこともできなかった。そのため、質の高い教師の確保は、住民にとって必ずしも望みどおりにならない重大な関心事であった。

それゆえ、住民は、教師の派遣を要請する場合、信頼のできる既知の教師を具体的に指名することも多かった。また、教育省あての請願書のなかには、教師にたいして不満をもっていた住民が、教師の交代を求めて提出した文書が数多く残されていることから、住民が教師にたいして厳格な目を向けていたことがわかる。こうした請願書をみると、住民によって不適格であると判断された教師は、厳しい批判をうけ、交代が求められる。教育省は、このような教師にたいする住民の批判や交代要求にたいして、視学官を派遣して調査するなどの対応を迫られることになる。

たとえば、1931年、チアパス州のテネハパという町の住民が、教育大臣にあてた学校設置の請願書をみてみよう。この町では、1927年まで連邦、州、市それぞれの政府が学校を運営していたが、その後、連邦政府の学校

が廃止され、市に援助された州政府の学校のみが存続していた。しかし、この学校に勤める教師にたいして住民が痛烈な批判を展開する。この請願書からは、よりよい教師を求めて、新たに連邦政府による学校を設置するよう要求する住民の熱心な姿が浮かび上がってくる（資料4）。

下記署名のわれわれチアパス州テネハパの父母会および住民は、最大の敬意を表して、緊急の必要性と、以下に述べる真の理由にもとづき、われわれの住む村に連邦学校を設置するよう決定されることを貴殿に訴えます。（中略）昨年、この州は、われわれの学校の教師としてイグナシオ・パニアガ、コンスエロ・パニアガきょうだいを指名しましたが、彼らは、情実によって、また賃金をもらうためだけにその仕事を手に入れたのです。それが周知であるのは、ほとんど読み書きができないからです。われわれは、不満や反感をもって、読み書き段階の子どもたちをその学校にゆだねなければなりません¹⁸。

続けて住民は、この教師たちが学業の面だけではなく、道徳的な面においても不適格であることを非難し、その年のなかばには学校が閉鎖されたとのべている。さらに、翌年になっても同じ教師が任命されたため、州政府に教師の交代を求めたにもかかわらず、州政府がそれに応じなかったと訴え、連邦政府の学校を新たに設置するよう州連邦教育局へ要求したのである。しかも、州連邦教育局だけではなく、同じ請願書が直接教育大臣にあてても提出されている。また、この請願書が提出される一ヶ月ほど前に、住民たちは州知事にたいしても、これらの教師が村の文化や生活の豊かさからはほど遠い仕事しかせず、村に軋轢を生みだすため政治グループを形成していると非難する文書を送っていたのである¹⁹。

つぎにみる文書は、教師を交代してもらったことによって教育の質が向上したとして、そのことにたいする感謝の意を教育省だけではなく大統領にまで表明しているものである。

Certificados 22-829-54/31

ASUNTO: Pidiendo el establecimiento de una escuela federal en Tenejapa Chiap., donde hay más de 300 alumnos en edad escolar.

Al C. Ministro de Educación Pública.
México D.F.

Los que suscribimos, padres de familia y vecinos de Tenejapa del Estado de Chiapas, de la manera más respetuosa ocurrimos a Ud. para pedirle que se sirva acordar el establecimiento de una escuela federal en el pueblo de nuestra residencia, fundado en la urgente necesidad que existe y en la verdad de las razones que en seguida exponemos, suplicándole con toda atención que si no es posible el establecimiento de una escuela primaria, cuanto menos que se nos dé una escuela rural federal.

8960

El pueblo de Tenejapa Chis. tiene una población de más de seis mil habitantes, de los que unos dos mil vivimos en el caserío del pueblo y no se ocultarán a la vista de Ud. señor Ministro que con tal motivo existen más de doscientos alumnos en edad escolar y que se impone la necesidad del establecimiento de una escuela para que no pierdan lastimosamente el tiempo, sumidos en la ignorancia que tanto cuesta desterrar.

En años atrás la federación, el Estado y el Municipio, sostenían escuelas en donde educábamos a nuestros hijos; pero desde el año de 1927 se suprimió la federal y el Ayuntamiento no pudo sostener la escuela debido a su precaria situación económica y solamente el Estado auxiliado del municipio sostuvo una escuela primaria.

El año próximo pasado el dicho Estado nombró como profesores de nuestra escuela a los hermanos Ignacio y Consuelo Paniagua que por favoritismo y solo para ganar el sueldo consiguieron esos empleos, lo que es notorio porque apenas saben leer y escribir. Con el descontento y repugnancia general tuvimos que poner nuestros hijos de primeras letras, en esa escuela, porque los más adelantaditos no tuvieron cabida, por cuanto los maestros citados los dijeron con franqueza que no podían enseñarles más; pero no se ajustaba todavía el medio año, cuando tuvimos que quitar de la tal escuela a nuestros pequeños parvulitos, porque nos obligaron a ello la mala conducta e inmoralidad de los Paniagua que además de su incapacidad para la escuela daban un pésimo ejemplo a nuestros educandos por embriagarse constantemente y ser responsables de actos indecorosos de la vida ordinaria y políticos, que les permitían desatender completamente sus obligaciones.

Desde mediados del año pasado la escuela se suprimió y los niños pierden el tiempo lastimosamente, lo cual está muy lejos del programa de desanalfabetización que el Gobierno se ha trazado.

Al comenzar el corriente año, la Dirección de Educación del Estado nombró nuevamente como profesores a los citados Paniagua y en atención a lo inadecuado de esa designación y nombramientos, nos dirigimos al Gobierno del Estado en la siguiente forma: pidiéndole que se cambiara a los profesores porque de lo contrario ningún alumno iría, como puede verlo en la nota original de contestación que acompañamos al presente memorial. Como ha pasado tanto tiempo y ningún caso se nos hiciera sobre nuestras reiteradas peticiones y como no hay ninguna escuela abierta en Tenejapa y nuestros niños pierden el tiempo, ocurrimos a la Dirección Federal de Educación en este Estado establecida en Tuxtla Gutiérrez y como aparece en los presupuestos una escuela en Tenejapa que no está abierta a los niños, temerosos de que se nos niegue el establecimiento de la escuela federal nos dirigimos a Ud. de esta manera respetuosa, para ponerlo en antecedentes y se sirva dar órdenes, para que se establezca en nuestro pueblo una escuela federal y si por las circunstancias no es posible el establecimiento de una escuela primaria, que cuando menos se nos dé una escuela rural federal, con lo que se beneficiaron más de 300 niños en edad escolar que anhelan tener una escuela donde poder



razgar el velo de la ignorancia, que los tiene relagados al peor estado de desprecio.

Con toda atención le protestamos nuestro respeto y consideración debidos.

Tenejapa, a 22^o de febrero de 1931.

~~Hechos Domingo~~ ~~Samirán Cortés~~

Narciso Pinargos.

Justino Alvarado

~~Manuel~~ ~~Marlina~~

Tomás Velasco

Aldigundo Velasco

Sarmiento Martines

~~Ignacio Guillén~~

Quintín Amador

Ignacio Guillén

Amador Coarino

Catalina ~~Fabre~~

Fidelino Miguero

Maria C. Martinez

Maria M. Lopez

Luis Lopez

Enzo Lopez

Walter Lopez

Roman Hernandez

Epitacio Huilla

Angelica F. de Velasco

José Velasco Robles

Agustín R. de Velasco

José Bermudez

Francisco Bautista

por Mercedes Cuates de S.

Dolores A. Velasco

José M. Guillén

M. Concepción Velasco

Guadalupe ^{ps} Velasco

F. Francisca Velasco

Leonila Velasco

Manuel Velasco

州と市政府に属するこの村の学校の維持は、わたしが代表する村のような貧しい村にとっては大きな問題でした。貧しい村には、存続していくための資源が完全に不足し、さらに教師の賃金を払うために寄付をしなければなりませんでした。(中略) 大統領閣下、この村でわれわれが送っている遅れた貧しい生活は、本当にひどいものであり、過去の政府は、悲惨で無知の暗闇のなかに沈んだ生活を送る不幸な先住民について、なんの心配もしていませんでした。さらに、1936年半ばごろまでにこの学校へ奉仕するためにやってきた教師たちは、彼らの使命を果たすどころか、この気の毒な村にとってさらに重いお荷物となりました。というのも、われわれの無知を悪用し、彼らに支払いをしている村にいつさいの利益をもたらすことなく賃金をうけとりに来たからです。われわれが、この村の学校を閉鎖してほしいと望んだのはこのためなのです。しかし、まさに1年前の昨年8月、現在のこの教育施設の校長であるヘナロー・ヒメーネス＝ロペス氏が教師としてやってきました。そのとき、われわれは、意識の高い教師によって、そして、子どもと若者だけではなく村全体を教え導く神聖な義務を遂行することに真に心を砕く教師によって指導される学校の有用性に気がつきました²⁰。

このように、教師の質の善し悪しを住民が厳しく判断し、住民の基準にあわない教師の交代や、さらには学校の閉鎖までもが求められた。反対に、子どもたちにたいする教育や村の生活向上に熱心であるとされた教師は、熱烈に支持されることとなるのである。

以下の請願書は、1979年、チアパス州のある村が、学校を教育省の所属から先住民問題を専門にあつかう国立先住民研究所の所属に変更するよう要求しているものである。この所属変更の申し出の原因が、教師に質にかかわるものであった。

われわれは連邦教育局に所属していますが、以下のことを貴殿にお知ら

せいたします。努力し子どもたちを教育するよう委任されていた（この村の）教師たちは、何年ものあいだ、任務の達成を成し遂げることはできませんでした。（中略）多くの生徒が、しかるべき仕事を遂行する教師が欠けているために、教育をうけずに成長してきました。われわれは、仕事において誠実な教師をひとりもみたことがありません。やってきては、気候になじまないというだけであり、数日間働くと去っていきます。そして戻ってくることはありません。それゆえ、学校は閉鎖されたようにみえます。この村の父母、一般住民は、総会において先住民調整局の所属へと変更する目的をもって集まりました。なぜなら、その教師たちは、仕事において信頼できるからです²¹。

ここでいう先住民調整局とは、1950年代に設置された国立先住民研究所の出先機関である先住民調整センターを指していると思われる。このセンターは、先住民居住地域の社会的、経済的、文化的発展を目的に、教育のほか農業や医療などさまざまな分野においておこなわれる生活改善のための活動を統括した。とくに教育の分野においては、先住民言語とスペイン語の二言語による教育を進めようとした。二言語教育については、スペイン語教育を優先したい住民が、この研究所所属の村の学校を教育省の管轄へと移すよう要求する村もあり、先住民村落すべてにうけ入れられたわけではなかった²²。しかし、上の請願書を提出した村は、そうした教育内容よりも教師の質の高さを求め、国立先住民研究所の所属を希望したのである。

こうした住民による教師の交代要求は、必ずしも子どもにたいする教育者としての資質を問題としていただけではないだろう。本章のはじめに引用した文書では、教師の能力や道徳的な資質とともに、村における政治的な活動が批判されている。いずれにしても、多くの場合よそ者である教師の活動は、あらゆる面において住民の監視のもとにあり、住民の高い評価がえられた教師は、住民からさまざまな援助をうけることができる。その

一方、教師が住民の批判をうけるような行動をとれば、住民によって排除されることとなるのである。

むすびにかえて

メキシコにおいて学校教育が普及していく過程のなかで、住民がそれにたいしてどのような意識をもち、どのように対応するかがいかに重要であったかをみてきた。政府が、限られた予算内で多くの学校をつくらうとするならば、住民の協力が必要となる。住民は、資金や労働力などの負担を強いられる一方で、みずからの努力でつくった学校にたいして「自分たちの学校」という意識をもち、政府に協力をすることで発言権を強めることとなったのである。

教師にたいしても同様に、衣食住といった基本的な生活にかかわることから、生命を含めた安全の保障にかかわることまで、さまざまな側面において住民が大きな影響力をもっていた。それは、教師にたいする厳しい視線につながり、住民の高い評価をえることのできる教師は勤務地において信頼と尊敬をうけることとなる。そしてそれが、教師としてのキャリア・アップにつながった。一方で、住民の要望や要求に応えることのできない教師は、住民による協力の拒否、子どもの就学拒否、教育省への教師の交代請求など、住民による批判にさらされることとなる。と同時に、教育省から教師としての資質を問われることにもなった。

学校や教師にたいするこうした住民の対応は、「学校」が国家による住民の教育・管理・支配の場となっているだけではなく、住民の強力な主導権のもとで、子どもたちへの教育に加え、居住地のさまざまな利益や権利を追求する場ともなっていることを示している。また、先にもふれたように、住民の利害はけっして一様ではなく、さまざまな集団や個人のあいだで意見の相違や対立がある。学校のもうひとつの機能として、住民どうしの交渉の場、あるいは合意やアイデンティティの形成の場となっていたこ

とも注目しなければならない。住民と国家との関係に加えて、住民どうしの複雑な関係にも焦点をあてつつ、学校教育が普及していく過程を明らかにすることが今後の課題となるだろう。

注 [] 内は初出年

- 1 Archivo Histórico de la Secretaría de Educación Pública (AHSEP)/ Dirección General de Educación Primaria en los Estados y Territorios (DGEPET), caja 9, expediente 20. かっこ内はとくにことわりのない場合、青木による注である（以下同様）。
- 2 この点にかんして、日本社会の戦前から戦後までの家族と学校との関係を探る広田は、両者の「一致・協力」あるいは「適切な分業」という認識に疑問をなげかけ、両者は「足並みが揃わないのがむしろ常態ではないだろうか」として、つぎのように指摘する。

家族は家族で独自の人間形成モデルを持ち（それは階層や職業によって異なる—広田）、学校に対して要求をつきつけたり、学校や教師からの指示・要望を甘受したり無視・反発したりする。学校は学校で、独自の利害やイデオロギーにもとづいて、地域や家族に介入を企てたり、彼らからの要求を聞き入れたり、無視したりする。（中略）別々の論理とイデオロギーをもつ複数の集団間のかけひきの歴史として、家族—学校関係の歴史を見直すことができるはずである（広田照幸『教育言説の歴史社会学』名古屋大学出版会、2001、p.246）。
- 3 青木利夫「新たな社会空間としての農村学校—20世紀前半のメキシコにおける農村教師をめぐる」広島大学総合科学部『地域文化研究』第27巻、2001を参照のこと。この小論においては、住民と国家の関係について農村教師に焦点をあてて明らかにしようとした。本稿は、それに引き続いて住民の教育要求を探り、両者の関係を住民の視点から明らかにしようとしたものである。
- 4 AHSEP/DGEPET, caja 5, exp. 17.
- 5 AHSEP/DGEPET, caja 10, exp.3.
- 6 Mercado Ruth, “Procesos de negociación local para la operación de las escuelas”, Rockwell, Elsie (coor.), *La escuela cotidiana*, México, Fondo de Cultura Económica, 1999[1995], p.83.
- 7 Mercado, Ruth, “La escuela en la memoria histórica local: una construcción colectiva”, *Nueva antropología*, Vol.XII, No.42, México, CONACYT/UAM—I., 1992, p.83.
- 8 校長の交代などによる学校の引き継ぎのさいには、必ず備品目録が作成され、教

師のほかに住民もそれに署名している。このことも、学校の備品の管理に住民が関与していることを示している。また、学校関連の不動産については、寄付によるだけではなく土地や建物などを借り受けることもあった。場合によっては、賃料の支払いをめぐる問題が生じることもあり、そのためか、過去の書類にあたって学校の不動産の所有権を確認し、それを記録した文書も数多く残されている。

9 AHSEP/Dirección General de Educación Primaria en el Distrito Federal, caja 17, exp.24.

10 *ibid.*

11 Rockwell, Elsie, “Key to Appropriation: Rural Schooling in Mexico”, Levinson, Bradley A., et al., eds., *The Cultural Production of the Educated Person: Critical Ethnographies of Schooling and Local Practice*, Albany, State University of New York Press, 1996, pp.314-315.

12 AHSEP/DGEPET, caja 8, exp.11.

13 この合意書が書かれた村では、学校を支持する住民と、司祭とともにそれに反対する住民とのあいだで意見の相違があったのではないかと推測されるが、残されている資料からでは推測の域をでない。しかし、教師の回想録のなかには、同じ村において協力的な住民と反動的な住民の両者が描かれることもあり、同じ地域の住民のあいだにも多様な考えがあった。この点の考察については今後の課題としたい。

14 AHSEP/Departamento de Escuelas Rurales e Incorporación Cultural Indígena, caja 1, exp.2.

15 *Los maestros y la cultura nacional 1920-1952*, Vol.4, México, SEP, 1987, p.133.

16 *ibid.*, p.114.

17 たとえば、ある農村教師は、自分の学校に生徒が集まらなかったため、住民に信頼される司祭がおこなうミサを手伝った。その結果、この教師を信頼した司祭が、子どもたちを学校に通わせるよう住民に助言すると、学校には生徒が集まるようになった。宗教を教育から排除しようとする国家の方針からすれば、教師みずからが、学校外とはいえ宗教儀式に関与することは処罰の対象とされたであろう。しかし、この教師にしてみれば、教師の職を失わないためにも生徒を集めなければならず、住民と国家のあいだにたってぎりぎりの選択をしたのである。この点については、青木、前掲論文、pp.48-50を参照のこと。

18 AHSEP/DGEPET, caja 10, exp.3.

19 メキシコにおいては、住民が政府にたいして何らかの要求をするさいに、大統領をはじめあらゆる関係者あるいは機関に要望書を送ることが多い (*Los abajos firmantes: cartas a los presidentes 1920-1928*, México, SEP/AGN/Editorial Patria, 1994, *Los abajos firmantes: cartas a los presidentes 1934-1946*, México, SEP/AGN/Editorial Patria, 1994なども参照のこと)。この地域の住民たちも、教育大臣、州教育局長、州知事などさまざまな関係者にあてて文書を提出している。また、教育省歴史文書館に残されている文書を見ても、住民は、住民の側に立つ団

体や政治家などに学校設置などを教育省にはたらかけるよう依頼しており、多様なルートを使って要求をつきつけていることがわかる。

20 AHSEP/DGEPET, caja 1, exp. 14.

21 AHSEP/DGEPET, caja 1, exp. 52.

22 青木利夫「メキシコにおける二言語教育と住民の教育要求」広島大学総合科学部『地域文化研究』第28巻、2002、第3章を参照のこと。

The History of Relation between the Inhabitants and the State around the School:
The Educational Demands of the Inhabitants in the Spread of Education in Mexico

Toshio AOKI

In Mexico the State intended to integrate the nation by creating “Mexican” and a homogenous culture through the education all over the country after 1920's. The inhabitants, on the other hand, tried to pursue their interests and rights by cooperating and compromising with the State, or being confronted with it. The spread of schools meant the creation of a new social space where the inhabitants and the State negotiate with each other over power, rights, culture etc. The object of this paper is to clarify the relation between the inhabitants and the State in the process of the spread of education in Mexico after 1920 by examining the educational demands of the inhabitants through their written petitions.

For the few decades after 1920, the federal government could not disburse for all the educational facilities like schoolhouse, playground, workshop etc. The inhabitants, on their part, provided funds, materials, and labor to construct or improve the school. As a consequence, they got to consider the school and its facilities as their own belongings. And they tried to use it for various activities of the town besides the educational ones. Furthermore, the inhabitants gave great support to the teachers sent by the government by furnishing them with transportation, house, food, and so on. That is, the teachers could never carry out the educational activities, nor even live in the town where they worked, without the cooperation of the inhabitants.

Offering their cooperation, the inhabitants required the educational authorities to send various things such as teacher, school supplies etc., and to change teachers who did not come up to the inhabitants' expectation for new ones. And the authorities had to take these requirements into consideration. For the State the school has been an apparatus to control the people and inculcate its ideology into them. For the inhabitants, on the other hand, it has functioned as a tool to negotiate with the State in pursuit of their own interests and rights in addition to the education for their children.